行政調査報告書「総務企画常任委員会」

平成 25 年 7 月 22 日（月）～24 日（水）

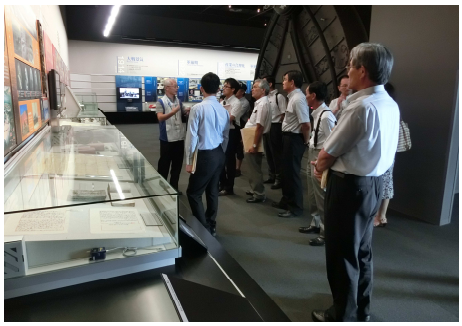
■鳥取県境港市「地域ブランドの情報発信について」

ＪＲ境港駅から商店街を結ぶ目抜き通りをコミュニティロードとして整備する中、妖怪オブジェを配置したロード構想が出てきたことがきっかけとなり、境港市出身の水木しげる氏が描く漫画に登場する妖怪のオブジェ、モニュメント、絵タイルを歩道に配置し、親しみのある快適な道として整備した。特徴は、①妖怪を題材としたユニーク性とストーリー性、②像の大部分は、大きさがミニサイズで、誰もが触れて親しめる、③像を子どもの目線の高さに配置していることなどである。

「ゲゲゲの鬼太郎」が、テレビドラマ、アニメ、映画など多くのメディアに取り上げられた宣伝効果は計り知れず、平成 22 年には全国から 370 万人余がこのロードを訪れた。

本市では、南吉ウォールペイントを各所に配置するなど、新美南吉を中心市街地のまちづくりに生かす取り組みを進めている。多くのマスコミに取り上げられ反響を呼んだ境港市の事例は、本市の新美南吉プロジェクトにも参考となった。

■広島県呉市「半官半民の指定管理者制度の導入について」



呉市歴史海事科学館(愛称「大和ミュージアム」)は、平成 17 年 4 月に開館し、当初 3 年間は市が直営で施設運営を行っていたが、運営方法の研究を重ね、現在は先進的な官民協働の管理形態となっている。平成 20 年 4 月からの運営方法は、学芸業務（資料の収集・保管・閲覧、調査、研究等）は継続性や専門性を確保する観点から市が直接実施し、施設管理部門(維持管理、保守点検、清掃・警備等）と広報・営業等については、指定管理者が行うというものである。この運営方法を導入後は、企画展の内容において、民間の経営意識が付加され、また、市の費用負担が削減されたなど一定の効果が出ている。

本市の歴史博物館においても、施設規模は違うが、呉市の事例は参考になると感じた。

■広島県東広島市「全国広報コンクール優秀都市における広報広聴について」

東広島市の広報紙は、最近 10 年間で全国広報コンクールで 3 回入選し、今年のコンクールでは市の部で全国 3 席となるなど、紙面づくりには定評がある。広報紙は、毎月 1 回フルカラーで発行し、即時必要な情報はホームページでの提供とし、使い分けをしている。実質的な編集長である女性の担当係長は、ＰＲプランナーの資格も有し、知識と経験が豊富であり、職員の能力とセンスによるところが大きいと感じた。

人事異動があった場合でも、定常的に同じレベルを維持できるか、また、いかに組織的なものにしていくかが課題であり、人材育成が大切であると感じた。